

本データベースは、公益財団法人 虚子記念文学館が所蔵する近代文学作家の自筆資料(原稿94点、書簡339点、句会稿6点)を収録している。明治から昭和戦前期までを対象に、60名以上の作家の自筆資料を横断的に利用できる。詳しい資料方法については、「使用方法について」を参照されたい。

刊行にあたって

公益財団法人 虚子記念文学館  
館長 稲畑 汀子

このたび、俳人 高浜虚子(1874～1959)が所蔵していた貴重な自筆原稿や書簡等、約 450 点が収録された、『オンライン版 虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集』が刊行の運びとなりました。

松山出身の虚子は、同期の河東碧梧桐と共に、同郷の先輩である正岡子規に俳句を主とした文学指導を受け、明治31年10月からは、俳句を主とする月刊文芸雑誌「ホトギス」の編集発行人となりました。この俳誌「ホトギス」は現在1480号を突破し、今なお脈々と継承されています。従って、このオンライン版に収録された自筆原稿には、「ホトギス」に掲載された短編小説や写生文、評論等が多く、中でも子規写生文「飯待つ間」や、夏目漱石の作家デビューのきっかけとなった「吾輩は猫である」ペン字自筆原稿(9章と最終11章)といった明治期の第一級資料が多数含まれています。また充実の虚子宛書簡は、虚子が最も大切に遺していた子規と漱石からの叱咤激励の100通余をはじめとして、森鷗外、芥川龍之介、長塚節、陸羯南、内藤鳴雪、浅井忠、小川芋銭と多岐にわたり、それぞれの自筆から、作家や画家達の豊かな個性を看取することが出来ます。さらに明治中期の日記文学の白眉である、子規晩年の日記「仰臥漫録」2冊も収録。子規が画家・中村不折からもらった絵具は高品質であったため、鮮やかな色彩のスケッチが再現されています。

西暦2000年の開館以来、今年で20年の節目を迎える当館は、今後も所蔵資料の保存及び公開に努めてまいり所存ではございますが、このオンライン版の刊行によって、より多くの方々に当館資料を御活用いただき、俳句のみならず、文学や美術等、種々のジャンルの研究に御役立ていただくことを、切に希望しております。